

## Wave characteristics of Psc pulsations simultaneously observed at ground stations in the morning and in the afternoon.

# 池本 泰典 [1]; 利根川 豊 [2]; 櫻井 亨 [3]

# Taisuke Ikemoto[1]; Yutaka Tonegawa[2]; Tohru Sakurai[3]

[1] 東海大・工・航空宇宙; [2] 東海大・工・航空宇宙; [3] 東海大・工・航空宇宙

[1] Aeronautics and Astronautics, Tokai Univ; [2] Dept. Aero. & Astro., Tokai Univ.; [3] Department of Aeronautics and Astronautics, Tokai Univ.

2003年10月に起きた大磁気嵐でのSSCにより発生したPsc脈動の波動特性について、その地方時依存性を調べた。今回は使用したデータは、午後側に位置していた日本の観測地(女満別、柿岡、熊本、鹿屋、西表)と中国のウルムチ、朝側に位置していたIMAGE観測網で記録された地磁気データである。それらのデータのスペクトル解析を行い、Psc脈動周期の朝側と午後側の違いについて興味ある結果を得た。朝側に位置したIMAGE観測網で観測されてPsc周期は約70sに対し、午後側で低緯度の日本の観測点ではより長周期の約85sであった。脈動周期の緯度依存性としては通常の脈動と逆の結果である。

発表では、今回のPsc脈動の位相および偏波特性の結果も加え、周期の地方時依存性の原因について議論する。

